

目指す学校像	宮原小の150周年の伝統を受け継ぎ、信頼を土台に子ども一人ひとりが輝ける学び舎
--------	---

重点目標	1 「主体性」「学びの達成」「読解力」「言語活動の充実」をキーワードにした確かな学力の定着 2 健康・体力向上と安全な学校づくり 3 コミュニティスクールを核とした学校と保護者、地域との強い絆で結ばれた学校づくり 4 新たな教育課題に敢然と立ち向かう教職員集団の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価			実施日 令和 年 月 日
					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語科、算数科ともに全国平均と県平均を上回り、これまでの取組の成果が現れてきている。 ○市学習状況調査の国語科の観点別結果では、「話すこと・聞くこと」はほぼ市平均と同じだが、「書くこと」「読むこと」は市平均を下回っている。 ○月曜朝15分間の「みやりタイム」や辞書引きの継続等により学習意欲が高まっている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果分析から「基礎学力の定着・向上」が課題である。 ○特に、基礎学力にかかわる「書くこと」「読むこと」に課題がある。	・自分の考えを適切な手段と豊かな言葉を用いて相手に伝えることができる児童の育成 ・国語科における「読解力」向上にむけた授業改善	①全国学力・学習状況調査を自己採点し、その結果をタブレット端末に保存・自己分析することで児童自身が学習状況を把握できるようにする。 ②授業においてICTを効果的に活用し、自分の考えを相手に伝えることができるようにする。 ③全国及び市の学力学習状況調査の最新の結果から、国語科の「読むこと」の状況を分析し、指導方法の改善に向けた研修を行う。 ④国語科に係る指導者を招聘し、御講演をいただくとともに、年間2回の研究授業の実践を通して、「読解力」について御指導をいただく。	①児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、目標を立て、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。 ②学校課題研修において、研究授業2回、公開授業4回を実施し、ICTを効果的に活用したか。 ③学校課題研修会等において、全国及び市学力学習状況調査国語科の「読むこと」の結果を分析し、指導方法の改善につなげることができたか。 ④国語科に係る指導者を招聘し、低・高学年の2ブロックで研究授業を実施できたか。				
2	<現状> ○屋外での活動が充実してきたが、コロナ禍の影響もあり、児童の怪我が多くなっている。令和4年度の怪我による保健室来室は延べ1,330人であった。 ○建物の老朽化が進んでおり、危険箇所や整備が必要な箇所がある。 <課題> ○児童の怪我を減少させる取組を強化する必要がある。 ○毎月の定期的な安全点検はもちろん、日常においても危険箇所や整備が必要な箇所の点検を実施し、速やかな整備を進め、安心・安全で美しい環境を維持することが必要である。	・子どもの怪我を減少させる取組の充実 ・安全・安心で美しい教育環境の整備	①怪我マップを作成・分析をし、怪我多発箇所改善の予算計画と執行を行うとともに、教職員による児童への怪我防止指導を強化する。 ②休み時間、教職員による校庭や遊具の見回り及び児童への指導を行う。 ①日々の点検で危険箇所を早期に発見し、3日以内に対応をする。 ②定期的な安全点検で安全措置を速やかに行うとともに、1週間以内に修繕を行う。また、内容に応じて教育委員会と適切に連携し対応を依頼する。	①怪我マップの作成と分析を通して、怪我多発箇所の改善と、教職員の怪我防止指導強化につなげることができたか。 ②怪我による保健室来室数を、前年度より減少させることができたか。 ①施設の修繕漏れに関わる事故を前年度より削減させることができたか。 ②学校評価の「安全管理の状況」について、肯定的回答90%以上となったか。				
3	<現状> ○令和3年度にコミュニティ・スクール実施校に指定され、本校の学校運営協議会の役割について確認、令和4年度は「豊かな心を育てるために」～スローガン策定に向けて～をテーマにして熟議を重ねた。 <課題> ○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を核とした地域づくり(地域の宝、社会の宝である子どもの育成)を地域へ情報発信できるようにする。 ○「宮原小学校学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」に基づいた具体的な実践により、地域とともに歩む学校づくりを推進する。	・学校だよりや学校ホームページなどを活用した、学校運営協議会取組内容の積極的な発信 ・「宮原小学校学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」を生かした、具体的な実践	①学校運営協議会における熟議等の概要を、学校だよりに掲載することで情報を発信する。 ②本校のホームページにおいて、学校運営協議会の記録を掲載することで、広く情報を共有する。 ①第1回学校運営協議会にて実践について熟議を行い、内容を決定したのちに実践を行う。 ②第3回学校運営協議会において、実践の振り返り、課題や改善点について熟議を行い、次年度の実践につなげていく。	①学校だよりの中に、学校運営協議会の取組について掲載することができたか。 ②学校ホームページ「コミュニティ・スクール」の項目において、広く情報発信することができたか。 ①「宮原小学校学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」を生かした、具体的な実践ができたか。 ②第3回学校運営協議会において、次年度への課題等を取りまとめることができたか。				
4	<現状> ○前年度教職員学校評価において、ICT教育についての肯定的評価が75%である。 ○前年度教職員学校評価において、各教科等のICTを活用した授業の状況は、90%である。 <課題> ○GIGAスクール構想を推進するにあたり、教職員のICT活用能力に差がある。 ○STEAMSTIMEの教材研究や授業づくりが必要である。	・学校課題研修に「ICT機器の活用による授業づくり」の位置づけ ・教科等部会の活用や研修の実施	①学校課題研修の主題を達成するための手立ての一つとして「ICT機器の効果的な活用」を位置付けて授業づくりを行う。 ②教科等部会等の時間を活用して、教職員のICT機器活用推進の検討や、STEAMSTIMEの実践計画案・情報共有等を実施する。	①学校評価のICT教育について肯定的回答80%以上及び各教科等の授業状況90%以上となったか。 ②教科等部会や研修等で、教職員のICT機器活用推進の検討や、STEAMSTIMEの実践計画案・情報共有等を実施できたか。				